「川をきれいにする児童図画」審査会

講評 ： 審査委員長　山形大学教授　小林俊介

〔はじめに〕



今年度の「川をきれいにする児童図画コンクール」には、（県内３１市町村の１０７の小学校から、ポスターの部に１，１２２点、川の風景の部に５２５点）合計１，６４７点の応募がありました。平成４年度から始まりましたこのコンクールは、今回で３４回を迎え、県内で開催されている小学生対象の絵画やポスター募集の中でも、大規模なコンクールとなっています。これは、山形県の小学生の皆さんが真剣に川を大切に考えている表れだと思います。このようにたくさんのポスターや絵を一生懸命に描いてくれたことは大変うれしく、川に対する思いが広がり、定着していることは、本当に素晴らしいことだと思います。

〔川への思いを大切に〕

元気よくいきいきと感動や思いが描かれた作品、時間をかけて丁寧に表現された作品など、山形県の川を大切に思う気持ちが伝わる作品と数多く出会えて、うれしく感じました。

ポスターの部では、「ふるさとのきれいな川を残したい」というメッセージが強く感じられ、川の風景の部では、実際に川に行って受けた印象や思い出などから、自分で見つけ出した川への愛着が伝わりました。どちらの部門も、きれいな川を大切に思う皆さんだからこそ生み出された作品ばかりでした。

〔出品者の皆さんへ〕

皆さんがこのポスターや絵を描く前に大切にしてほしいことがあります。まずは、川への思いや体験をたくさん思い出してみましょう。そして、家族やお友だちと話しをしましょう。川への思いは一人一人違います。川の色や形のとらえ方もそれぞれ違っています。そうした思いを色や形に表すということは、すこし線が曲がっても、色がにじんでしまっても、あなただけのかけがえのない足跡になります。自分らしさを大切にし、何を描こうか、どんなふうに描こうか、思いをめぐらしながら描いてみてください。

作品を完成させるまでの間は、楽しくもありますが、思うように描けなくて大変なこともあるかと思います。それでも、あれこれ工夫をしながら試していくことが、ポスターや絵を描く面白さでもあります。チャレンジしながらどんどん描いていくと、素敵な作品が生まれますよ。

〔指導される方へのお願い〕

以下に指導される方（学校の先生や保護者の皆さん）へのお願いをいくつか記します。

① 子どもの作品は子ども自身のものですので、他の人が子どもの作品に手を加えることはできません。活動の際、テーマや制作に関わる支援は必要ですが、「これはこう描くんだよ」「こうしないとだめだよ」といった子どもの創作意欲を削ぐような指示や手直しは避けてください。また、それぞれの個性や発達段階に応じて、他の子どもと比べたりせず、その子の思いを大切にして、できるだけ自由に描かせてあげてください。教育や子育ては、個々の違いを理解し、認めていくことが大切な出発点です。

② 描き始める前に川に対する思いをふくらませるための時間をじっくり取り、描きながらその子なりの思いや表し方を探究していくプロセスを大切にしてあげてください。安易に出来合いのアイデアの模倣はさせず、自分で工夫した作品になるよう見守ってあげてください。感じることは絵が描けることより大切なことです。日々の生活の中で自ら感じ、考えるための様々な体験をさせてあげるようお願いします。

③ 子どもにとって、表したものを受け止めてくれる人がそばにいることは一番の応援になります。また、自分の思いを安心して外に表現できることが自信と自己肯定感につながります。子どもの考えや感じたことをそのまま受け止め、表現に共感する心と愛情をもって、楽しく対話を重ねていただければと思います。

〔今年度の受賞作品について〕

着彩の技術や全体の構成に優れた作品が多く、審査には苦労をしましたが、みなさんの心のこもった作品に囲まれ、充実した時間を過ごすことができました。選考に際しては、表現のなかに川への思いがつよく感じられるもの、そうした川への思いが技術と一体となって、表現として見る者につよく訴えかけてくるもの、そういった基準をもって拝見させて頂きました。しかしながら、応募作全体の水準はきわめて高く、その違いはわずかであり、どの作品もかけがえのない作品であることにかわりはありません。

ポスターの部で特選を受賞した柏倉澪里さん（１年生）の作品では、「川にゴミをすてないで」というテーマが明確に表現されています。左右対象の画面構成によって汚れた川ときれいな川を対照的に捉える表現は他の応募作にも見られましたが、柏倉さんの作品は色彩の変化という点でより優れていました。汚れた川は緑がかった灰色、きれいな川は澄んだ青色という主調色でまとめていながらも、濃淡に変化があり、また川底の石は様々な色で塗られていて、見ていて飽きない作品です。彩度を低くまとめた川の中の表現と、彩度が高くはっきりとした文字とのバランスも見事であり、1年生とは思えない作品のまとまりと表現技術の高さを示しています。

川の風景の部で特選を受賞した菊地爽太さん（５年生）は、勢いのある筆づかいで川の流れを生き生きととらえました。青の濃淡によって川の透明感が、白い絵の具の厚塗りによって川の水しぶきが、それぞれ適切に表現されています。川の水は長い筆づかい、中州の岩や草木の緑はみじかい点描でと、絵の具の塗り方にも変化があって、見ていて飽きない作品です。塗り残された画用紙の白色も、塗られた水しぶきの白色との違いから、色彩の変化を豊かにすることに役だっています。濃い茶色や黒もにごらせずに使っている点が優れており、明るい色彩が中心となっている画面を引き締めるアクセントとなっています。全体として、感覚的な筆づかいが川のいぶきを感じさせる、優れた作品となっています。

〔結びに〕

「川をきれいにする児童図画コンクール」は、今年度も応募された皆さんの川への思いがたくさん詰まったものになりました。ぜひ皆さんの心の中の「山形県の川をもっときれいにしたい」という思いをさらに大きく育て、次の世代までつなげていただきたいと願っています。